

愛も喜びも そして命も消えた!

# 戦争とは?



## 原爆を積んだ B29 発進基地の島

悲劇の歴史 ～南洋興発会社の悲慘な日本人移民の記録～ “玉砕”の島を生きて

そして今! 日本からの放射性汚染水の太平洋放出に抗議している

## テニアン島から学ぶ平和へのアプローチ

■日時 2023年7月30日(日曜日) ・展示会 10:00 ~20:00

・講演とトーク 13:20 ~16:30

■場所 東京たま未来メッセ (八王子市明神町3丁目19番2号)

・展示会 - 第7会議室3F ・トーク - 第4会議室3F

■入場 入場整理券 500円(資料代) 18歳以下と学生は無料

■主催 三多摩9条連

■協賛 マスコミ市民フォーラム、Saveザ9条・Saveザ憲法西東京市民の会  
JR東労組八王子地方本部 / OB会、森びとプロジェクト東京ファンクラブ



【展示会】 10:00 ~ 20:00

**写真と資料** B29爆撃機が発進した滑走路、日本軍第一航空司令部跡、鍾乳洞に刻まれた日本兵の遺書、玉砕した兵士の遺骨、集団自決跡、故・石上正夫さん(三多摩9条連共同代表)が1976年から30数年にわたりテニアン島を踏査し調査した資料と写真

【参考映像も放映予定】“玉砕”の島を生きて～テニアン島 日本人移民の記録～

【講演とトーク】 □13:20 ~太田直子さん他 □15:30~参考映像の放映



太田さんは2002年から17年以上にわたる取材を通して「テニアン島 日本人移民の記録～NHK ETV特集(2021年8月28日以降再放送回数)」を制作。また2010年「月あかりの下で ある定時制高校の記憶」、2016年「まなぶ 通信制中学 60年の空白を越えて」を制作・監督など多くのドキュメンタリーを制作。 □2022年「石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」「放送批評懇談会ギャラクシーテレビ部門 優秀賞」「ATP賞テレビグランブリードドキュメンタリー部門最優秀賞」「HBF放送文化基金賞テレビドキュメンタリー部門 優秀賞」等多くの賞を受賞

## 日本から約 2000 キロ離れた 南太平洋のテニアン島

### 【原発の汚染水を太平洋へ放出しようとする日本】

いま日本政府は東電福島第一原発の汚染水を海へ放出しようとしています。その太平洋には多くの島々があり、サイパン・テニアン・ロタの自治体議員は反対決議と署名活動を行い、北マリアナ連邦議会は上下両院全会一致で抗議決議を上げています。原発汚染水の放出は今や日本の問題にとどまりません。

### 【放射性廃棄物の太平洋投棄計画を凍結した38年前の日本】

1980年、日本政府は放射性廃棄物をドラム缶に詰めて太平洋への投棄を計画しました。当時の北マリアナ政府、テニアンのフィリップ・メンディオラ市長らの抗議と説得で、中曽根首相は1985年、断念しました。[石上正夫著「海と星と太陽と」]



### 【ミクロネシア人(チャモロ人含む)が住む島へ日本人が移民】

テニアン島は北マリアナ諸島の一つで元々チャモロ人が暮らしていた島です。1521年マゼランによって発見されたとされていますが、それからはスペインの植民地、ドイツの植民地、そして第一次世界大戦で日本軍がドイツ領を占領し、委任統治領となりました。日本はそこへサトウキビ栽培と製糖を主な産業にした国策会社南洋興発を進出さ、約7,500人の日本人を移民させました。開拓当初は苦労したもの、生活が安定すると、南国の楽園として、平和で豊かな暮らしをしていました。

### 【南国の楽園から悲劇の島へ】

しかし太平洋戦争が始まると、日本軍の飛行場建設に、動員され、戦争の末期には8000余名の日本兵が、米軍に追い詰められ、ほぼ全滅状態になりました。生き残った日本人も極限状態に追い込まれ、捕虜になることを「末代までの恥」と教えられていたので、自決・玉砕を迫られ、愛する我が子にまで手をかけ、3,500余名が犠牲になり、悲劇の島となってしまいました。

### 【B29爆撃機の基地・広島への原子爆弾「リトルボーイ」を搭載したエノラ・ゲイ機が発進した島】

テニアン島を占領した米軍は、日本軍の作った飛行場を拡張しB29爆撃機の発進基地にして、広島・長崎への原爆投下、八王子大空襲、東京大空襲等々日本本土への爆撃を繰り返しました。

### 【太田直子監督 受賞コメントより「HBF放送文化基金賞テレビドキュメンタリー部門 優秀賞」】

沖縄戦の一年前にあった住民を巻き込んだ地上戦、集団自決の記憶はあまりに惨く、多くの人がずっと口をつぐんできました。それほどに悲惨な戦争に巻き込まれる民間人が、いまこの世界にいるということに、体験者の皆さんは本当に心を痛めています。つらい思いを抑えて語ってくださった方々の証言が、二度と戦争を起ささない、という現実の力となり、活かされていくことを切に望みます。 ETV特集 「“玉砕”の島を生きて ～テニアン島 日本人移民の記録～」

原爆も、戦争そのものを肯定する人は、だれ一人いません。だが未だに戦争も核兵器もなくなってはいません。戦争、そして被爆を体験していない世代が大半となっている今、テニアン島で起きたこと、起きていることに、想像力をはたらかせて、考え、行動することがもとめられているのではないのでしょうか。 — 三多摩9条連 —